

バドミントンの新聞報道と競技団体の活動の関係についての研究

The relation between press coverage of badminton and the activities of the Nippon Badminton Association

1K10C398 丸尾 亮太郎

主査 リー・トンプソン先生

副査 渡辺英次先生

【目的】

本研究は、競技力向上に必要な要因の解明、バドミントンの報道のされ方の分析、競技団体の活動と競技と競技団体の関係の探索を通して、バドミントンに対するマスメディアの報道内容の現状を分析するとともに、競技団体の活動内容と競技団体の活動が競技自体にどのような影響を及ぼすかの解明、さらにはバドミントン競技の今後のあり方について考察することを目的とする。

【方法】

新聞報道の内容分析と競技団体、日本バドミントン協会へのインタビュー調査を行った。

内容分析は朝日新聞を対象に、2004 年アテネ五輪、2008 年北京五輪、2012 年ロンドン五輪の開催期間の記事を調査した。朝日新聞データベースの対象紙面名の「朝日新聞」のみにチェックをつけ、検索ワード「バドミントン」で検索した。それぞれの記事を、コーディングシートを用いてサンプリングし、その後 Excel にてデータの収集、分析を行った。

インタビュー調査は、日本バドミントン協会の専務理事でおられる今井茂満氏を対象に、新聞報道の内容分析を行った結果に対して日本バドミントン協会がどのように関わり、どのような活動、戦略を行っていたのか、バドミントン競技の今後の活動、展望について伺った。

【結果】

内容分析では、2004 年アテネ五輪から 2012 年ロンドン五輪にかけて「バドミントン」で検索された記事数の増加がみられた。記事内容は 2008 年北京五輪以降人物に関する記事数が最も多くなった。さらに、男女の記事数の比較では女性記事が男性のおよそ 3 倍の数値を示した。また、競技成績の良し悪しに準じて記事数が増減しており、非常に実力主義の競技であることが判明した。

新聞報道内容分析の結果を受けてのインタビュー調査では、2005 年アテネ五輪以降から、マスメディアへの働きかけを始めたことが判明した。しかしながら、競技において最も重要なことは、マスメディアに対する秀逸な働きかけではなく、競技自体の基盤を太く築き上げることであった。競技自体に魅力を持たせさえすれば、余計なテクニックなどいらず、自然と競技は盛り上がっていくということだった。

今後のバドミントン競技は、すべて 2020 年東京五輪を見据えて活動することが最優先事項であった。スポーツにおいて 2020 年東京五輪が持つ力の大きさは、どの競技団体も認識している。そこでメダルを獲得することが競技発展のための最も近道になるため、メダルを獲得する可能性がある選手を早急に見つけること、メダルを獲得した時の材料を収集することが直近の活動になるようである。

【考察】

「バドミントン」で検索された記事数の 2004 年アテネ五輪から 2012 年ロンドン五輪にかけての増加と 2005 年からの協会の本格的なマスメディアへの働きかけの開始、この二つを考慮するとバドミントンの新聞記事数の増加には、日本バドミントン協会の取り組みが影響を与えているといえる。また、日本バドミントン協会の方策の仕組みによって、女子選手の方が必然的に取り上げられることが多くなっていた。協会の働きかけは、単に記事数を増加させるだけでなく記事内容や男女の記事数差にまで影響を及ぼすのである。

また、バドミントンは商業スポーツとしてより興業的に発展していく必要がある。そのためには、競技自体の魅力を高めていくことが重要である。そうすることで、バドミントンを求める買い手が増え、利益を生み出せるスポーツとなることができる。そのための手段としてオリンピックを最大限活用するのである。誰もが注目するオリンピックでメダル争いに絡み認知度を高め、バドミントン競技自体も見せ方にこだわりエンターテインメント化させておく。そして、国内の大会を成功させることで、より興業的に発展し、人気競技として位置づけられるようになるのではないかな。

【結論】

本研究で、バドミントンの新聞報道は人物に関する記事が最も多く、記事数が増加したり女性選手の記事数が男性選手よりも多くなったりすることがわかり、その傾向には日本バドミントン協会の働きかけが影響を及ぼしていることを解明した。また、競技の人気向上は競技人口の増加と競技力向上が最も重要な要素であり、そこを構築しながら今後の活動のすべてを 2020 年東京五輪成功に向けて行っていくことが、バドミントンが人気競技として位置づけられるために、最も近道になる方法であることが判明した。